第２回同窓会役員会・基調講演

『東京大学とはどんな所・こんな所!!』

岐阜東高等学校特進コース卒業（第 **60** 期）
越智遼平

要　旨

日本最高の学術機関とされる東京大学の学生は、世間的には「お堅い」「勉強ばかり」「真面目」との印象を持たれたり、あるいは「変人」「変わっている」等の印象を持たれているかと思う。このような社会一般のイメージに比べて、実際の東京大学はどうなっているのか、東京大学卒業生である講演者が語る。東京大学の学生生活を大学生活面、プライベート面の二つから解剖し、演者の経験を踏まえて実体験を語る。この講演を聴き終わった後、東京大学、東京大学の学生へのイメージはがらりと変わることは間違いない。

さらに、岐阜から上京し、東京で社会人生活を営んでいる講演者が「岐東から日本、世界へ」をテーマに、故郷である岐阜や母校である岐阜東高校に対して抱く思いなど「**25** 歳の現在地点」を熱く語る

経歴

- 2000 年 11 月　岐阜市に生まれる
- 2013 年 4 月　岐阜東中学校入学
- 2019 年 3 月　岐阜東高校卒業
- 2019 年 4 月　東京大学文科一類入学
- 2022 年 3 月　東京大学法学部卒業（早期卒業）
- 2022 年 4 月　東京大学法学政治学研究科法曹養成専攻入学
- 2024 年 3 月　同卒業
- 2024 年 4 月　司法修習（77 期）　福岡修習
- 2025 年 4 月　西村あさひ法律事務所・外国法共同事業入所

岐阜東高等学校・同窓会役員会主催

2025 年 **12** 月 **29** 日（月）

講演内容

0.　はじめに（ご挨拶）

本日は年の瀬にも関わらず、第二回基調講演にお越しいただき、誠にありがとうございます。岐阜東高校（60 期卒）越智遼平です。若輩者ではございますが、本日は、何卒よろしくお願い申し上げます。

私は現在 25 才で、東大法学部を卒業後、西村あさひ法律事務所に勤めています。一般的な弁護士の仕事のイメージとして裁判が挙げられるかと思いますが、私が取り扱うのは企業法務分野の弁護士業務であり、裁判の経験はありません。

現在の仕事は大きく分けて 3 つの業務を行っています。1 つ目は、企業の日常的な相談への対応で、例えば、企業の労働問題に関する相談への対応などが挙げられます。2 つ目は、M&A 対応で、企業同士が合併するような場合に法的な観点からアドバイスを行います。3 つ目はアクティビスト（物言う株主）対応で、企業に対して様々な要求を行うアクティビストへの対応策をアドバイスしています。

１．東京大学ってどんなとこ？

ところで、皆さん、東京大学といえばなにが思い浮かびますか？「赤門、安田講堂など」が世間一般に知られています。では、東大の教育システムはご存じでしょうか？東大には「科類」（前期課程）と「学部」（後期課程）があります。科類は「入学時の入り口（スタート地点）」で、学部は 3 年生から所属する「専門領域（ゴール地点）」で、入り口に立った時点では、学部を決まっていません。これは他の大学とは大きく異なる部分です。そして、前期課程では、入学した新入生全員が駒場にある教養部で、基礎教育を学びます。

「科類」は、1～2 年生の教養学部前期課程での所属を区分したもので、文科一類は法・政治中心の社会科学、文科二類は経済中心の社会科学、文科三類は言語・思想・歴史などの人文科学、理科一類は数学・物理中心の数理・物質科学、理科二類は生物・化学中心の自然科学、理科三類は医学部医学科への進学者が多い生命科学系となります。理科三類は 100 人程度で、他の科類と比べて定員がかなり少ない難関学部になっています。ただし、科類によって進学できる学部が固定されているわけではなく、2 年間、駒場で教養教育を受けた後、成績と希望に基づいて「進学選択（進振り）」で学部を決めます。法学部・医学部などの学部は、3 年生から所属する専門教育の場です。法学部の他に、経済学部、文学部、教育学部、工学部、理学部、医学部（医学科は 4 年間の後期課程）などの学部に進むと、専門科目を中心に学び、卒業研究や実習などが本格化します。

科類と学部の違いを表で整理

区分	役割	所属時期	内容
科類（文 1～3、理 1～3）	**入学時の区分**	1～2 年（前期課程）	幅広い教養教育、進学選択の準備
学部（法・医など）	**専門教育の場**	3～4 年（医学科などはさらに長い）	専門分野の学修・研究

東大は、入学後にじっくり進路を考えられるようにするために、この「科類→学部」の二段階方式を採用しています。それは、高校生の段階で進路を決めきれなくてもよいが、大学に入ってから興味の変化に対応できるように、文転・理転も一部可能（全科類枠）になっていて、非常に柔軟性が大きな特徴です。つまり、科類は「入り口」で、教養教育を受けるための区分と考えると理解がしやすく、学部は「専門」で、3 年生から本格的に所属して将来社会に出てから基礎をみっちり積み重ねていきます。

２．東京大学を目指した理由

２−１.必要性

高校生の時、企業法務弁護士に関するドキュメンタリーをテレビで見て、M&A によってより価値のある企業を創ることで社会に貢献する弁護士の姿を見て、企業法務弁護士に憧れました。弁護士になるためにどうすればよいかを考え、司法試験の合格率の高い東京大学に進むのが一番の道と確信しました。それ以来、東京大学合格を目標に勉強を取り組んできました。

２−２.可能性

高校一年生の時に、当時の英語教師から「君たちの代からは東京大学と京都大学合格者を出す。越智はどっちがいい？」と冗談まじりに言われました。そのときは戸惑いましたが、よく考えると、この言葉は自分があと 2 年間しっかり積み重ねれば東京大学も夢ではないとのエールを受けたように思え、このときから東京大学受験が自分の中で現実的な選択肢となりました。

３．東大前期課程（駒場）

３−１．「デパ地下のお惣菜コーナー」

東京大学の前期課程を一言でたとえるなら、それはまるで「デパ地下のお惣菜コーナー」です。デパ地下のお惣菜コーナーに多様な専門店が集まっているように、東京大学の前期課程では多種多様な学問を履修することができます。全 13 回の授業で学問の基礎的なコンセプトを一通り学ぶことができ、興味を持った分野については更なる学びを深めることのできるシステムが整っています。文系であっても理系分野が必修となっているな

ど、制度的にも多種多様な学問を学ぶことのできるシステムが整っています。

３－２．「通奏低音」

前期課程では、多種多様な学問を学ぶことで各学問に共通する要素（＝通奏低音）を学ぶことができます。例えば、科学的思考であったり、因果関係を正しく把握できる論理的思考など、これから学問を深く追究していく上では必要不可欠なことを学ぶことができます。これらの力はより深い学習、研究を進める後期課程で大いに役に立つことになります。

３－３．「さんまの東大方程式」の罠

著名なテレビ番組である「さんまの東大方程式」では一風変わった東大生が出演しており、世間的な東大生のイメージは彼らのような「東大生＝個性的で変わった人」とされることが多いです。しかし、実際には、私の同級生は学力だけでなく、人間性にも優れた魅力的で、きちんとした常識感覚を持つ人が多く、いわゆる「個性的」な人ではありませんでした。世間の東大生のイメージと実際の東大生との姿の間には大きな乖離があると思います。

４．東大後期課程（本郷）

４－１．「深遠なる学問への誘い」

東京大学の後期課程（＝法学部）は前期課程とは異なり、一つの学問を徹底的に細部に至るまで学んでいく場所です。

東京大学法学部の「学問性」について驚いたエピソードがあります。法学部の刑法の初めての授業でのことです。私はてっきり司法試験の刑法の問題のような何らかの設例が与えられ、事案に即した問題を解くような授業が行われるかと思いましたが、教授が話し始めたのは「人はいつ刑法上の『人』となりうるのか」という議論でした。この点については、刑法上、胎児が母体から全部露出した時点を人の始期とする「全部露出説」や胎児が母体から一部でも露出した時点を始期とする「一部露出説」など様々な学説があるところで、なぜこの学説が妥当なのかという説明がなされ、現在とられている通説が一部露出説であるということを学びました。これは、決して些末な学問的な議論ではありません。人の始期に関する刑法上の論点は胎児の時に与えられた侵害について、誕生後に何らかの害として発露した場合に、その侵害について帰責できるかという胎児性致傷の問題に議論が発展し、これは水俣病などの公害事案で生まれた子どもが奇形児だったようなときに、公害の原因物質を排出した事業者が刑事上の責任を負うかという現実的な論点にもつながりうる議論なのです。このように、法律について一つ一つ、深く学んでいくのが後期課程の学びになります。

４－２．「文化的社会人」であれ

学問を深く探求することは重要ですが、東大の教授たちは皆学問は社会に何らかの形で役立つものであるべきとの意識をもっています。前期の水俣病の話はまさに社会に役立つ形で刑法という学問上の議論が発展しており、学問を社会に還元した例といえます。学問的素養を養うことは重要であるが、学生を社会に対して何らかの価値を還元できる人材にするというのが東大の教育方針だったように思えます。

５．東大から見た岐阜、岐阜東高校

地方と都会には教育格差があり、地方から難関大学を目指すことは難しいと言われますが、現代は必ずしもそうではないと思います。ITC の急速な発展により、地方と都会の文化資本の差は確実に縮まっていますし、勉強についても様々な情報があり、そこに容易にアクセスすることができます。そう考えると、岐阜から日本、世界を代表する人材が出ることも十分あり得ますし、結局のところ、それは当人の努力や意識次第なのではないかと思います。このように、ある意味「自己責任」が強く求められる時代だからこそ、私も弁護士として、自己研鑽を欠かさないようにしたいと思っています。

技術の発展でいえば、ここ 2 年間の AI の発展は目覚ましいです。私も仕事で AI を使わない日はありません。これからは AI を使いこなせる人材が必要となりますが、同時に AI では代替できない能力を養うことも重要です。それは、まさしく私が東大で学んだ学問どうしに共通する「通奏低音」である論理的思考力や科学的な思考手段であると思います。

６．おわりに（御礼）

本日お集まりいただきました皆様、会場を設営し貴重な講演の場を準備して頂きました同窓会・役員会の方々に、心より感謝申し上げます。

質疑応答

１．　安田樹生さん（岐阜東高校一年生）
（質問１）私も東京大学法学部から弁護士を目指して勉強しています。担任の先生から、同窓会で先輩の講演会が有るので行って見たらと勧められました。そこで質問ですが、将来の夢（弁護士）と学校の授業をどのように関係させて勉強して行ったらよいでしょうか
（応答１）まずは高校までの学校の授業を大事にすることだと思います。高校までの教科書の内容は大学で学問を学ぶために必要不可欠な内容で、いわば足腰づくりになります。

２．　坂井至通氏（同窓会・会長）
（質問２）岐阜薬科大学に進みました。本学は東海を中心に京都・大阪の近畿圏から兵庫・岡山・広島・山口から九州まで幅広く学生が集まる関西系の大学です。入学当時に「京都ふじんかい」や「大阪ふじんかい」の開催アナウンスがあり「婦人会」参加の呼びかけが有りました。あとで「府人会」と分かりましたが九州出身者は「九州県人会」でした。そこで質問ですが、東京大学は全国から学生が集まってきます。「岐阜県人会」のような集まりは有りましたか？
（応答２）岐阜県人会はありませんでしたが、他の県には県人会がありました。県人会のある県は多様な高校から東大に学生が集まっている県だった印象です。

３．　浅野伸一氏（同窓会・監査）
（質問３）全国各都道府県で東大合格者が一人の所は、それぞれが集まっていたと聞きますが？
（応答３）そう言った形の集まりは無かったと思います。
（質問４）東京大学は午前中の講義には出ないで夕方の講義を受ける学生が多いと聞きますが？
（応答４）特に理系の学生は実験や研究があり、夜遅くまで学校に居るので、そう思われているのかもしれません。講義時間は 105 分にしていることもあります。
（質問５）校舎は古いですか？
（応答５）法学部棟は歴史を感じさせる建物です。

４．　中島徳至氏（**BSM** 社長）
（質問６）私も東京大学で講義をした事が有ります。つまらない時、学生さんは授業中よく寝ていましたが、質問をすると的確に答えるので確かに理解しているのだと思いました。M&A の際には依頼者と議論を尽くしていくと思います

が、仮に自分の考えていることと逆の結論を依頼者がとりたい場合、弁護士としてどうしていますか。
（応答６）依頼者あっての仕事なので、依頼者の意向に沿うためにロジックを考えます。一方で、弁護士は法律の専門家であり、当たり前のことですが、法律に反するアドバイスはできないので、ここは譲れないという線引きをもってアドバイスしています。
（質問７）ベンチャー企業と大企業の契約交渉では、大企業に言われるがままに有利な契約条項をのまされたりすることがあります。無茶な提案をされたときには、弁護士としてどうしていますか。
（応答７）契約交渉において、最初に無茶な提案をふっかけることは通常のことですが、最終的な落としどころは最初から考えています。契約交渉の中で、のめる提案と譲れない提案をかぎ分けて適切な落としどころで契約を締結できるように努力しています。

５．　平子俊輔氏（第 **60** 期卒・クラスメイト）
（質問８）政治家で東京大学出身者がたくさん居ますが、越智さんは政治家になるようなことはありますか？
（応答８）今のところありませんが、現在は企業弁護士として頑張って実績を積み上げていきたいと思っています。
（質問９）愛知大学は学生運動が盛んな学校ですが、東大はどうなんでしょう？
（応答９）かつては学生運動が盛んだったことは事実です。安田講堂にも傷跡があったりします。今も学生運動自体がなくなったわけではないですが、昔に比べれば数や勢いは小さくなっていると思います。

６．　浅野早織先生（岐阜東中高一貫校・教員）
（質問 10）越智君は日本史の勉強で、黒板をノートに書き写すだけでなく、私が話すことも書いていました。東京大学を目指していることを知り、私も東京大学の試験問題に取り組みました。
（応答 10）浅野先生から高校 3 年生のはじめに東大の日本史の問題集をいただいたことを鮮明に覚えています。そこから一緒に入試問題を考えていくスタイルで東大の過去問に取り組んでいただいたことは非常に感謝しています。

７．　高井法博氏（**TACT** 高井法博会計事務所・会長）
（質問 10）私は終戦直後にお寺の息子に生まれ、それまで寺にも土地があり比較的裕福でした。**GHQ** の政策で一気に基盤を失い新聞配達をしながら家計を助け学校に通っていたのですが、苦労が重なり父親が倒れてしまいました。そのため勉強も途中で諦めて社会に出ました。当時の後藤ひよこ㈱の社長さんに助けられ、勉強を続け会計士の資格も取れました。生活費に苦しんで苦学を強いられている若い学生さんに支援するため、「公益財団法人高井法博奨学会」を立ち上げました。越智さんは、第 **3** 期目の学生さんでした。こうして、立派になって故郷に戻り、講演をしてくれたことに感謝しています。

（応答 10）TACT の皆様からの参加を頂き心より感謝いたします。私も岐阜東高校の時、学校からの案内で TACT の奨学金制度を知りました。応募したところ合格の連絡を頂き生活費を援助して頂きました。そのおかげで東大受験勉強にも勉強に一層力を入れることが出来ました。今でも御恩は忘れていません。